

1 級第 6 回検定の結果・分析（前回との比較）

【結果】

- 申込者数が、学科は 52 人（9.7%）増加して 586 人、実技は 165 人（27.3%）増加して 769 人、合格者も学科合格が 56 人増加して 313 人、実技合格が 37 人増加して 64 人となった。その結果、試験種別の合格率では、前回と比較して学科は 5.28 ポイント、実技が 3.85 ポイント上昇した。
- 総合合格者が前回より 30 人増加して 62 人となり、総合合格率が 6.8%（前回は 4.4%）となった。
- 受検資格別の申込者数で⑥2 級合格&実務経験 3 年以上が 115 人増加して 423 人となった。受検資格別の総合合格率は、①実務経験 10 年以上が 8.2%（合格者数 27 人）、⑥2 級合格&実務経験 3 年以上が 6.6%（合格者数 28 人）だった。
- 性別の申込者では女性が 133 人（29.4%）増加して 586 人、男性が 54 人（17.5%）増加して 329 人となり、申込者の男女比は 36 対 64 となった（前回の男女比は 38 対 62）。総合合格率は男性が 7.0%（合格者数 23 人）、女性が 6.7%（合格者数 39 人）であり、総合合格者の男女比は 37 対 63（前回の男女比は 25 対 75）となった。
- 実務経験年数では、①7 年以下の申込者が 114 人（37.0%）増加し 422 人、総合合格者も 12 名増加して 28 人となった（合格率 6.6%）。合格率が最も高いのは、③11～15 年で 7.8%（合格者数 18 人、全体の平均合格率は 6.8%）である。
- 受験者の居住地域別では、申込者が関東・信越で 61 人、近畿で 52 人、東海・北陸で 37 人増加したのが目立つ。総合合格者は、関東・信越が 14 人増加し 29 人（合格率 7.4%）、東海・北陸が 10 人増加し 10 人（同 9.7%）、近畿が前年と同じで 8 人（同 4.6%）、九州・沖縄が前年と同じで 8 人（同 7.5%）だった。
- 受検者職種別では、申込者についてキャリアコンサルティングが 94 人増加し 546 人、人事・労務・能力開発が 32 人増加し 93 人なり、総合合格者ではキャリアコンサルティングが 20 人増加して 43 人（総合合格率 7.9%）、教師・教員が 4 人増加して 4 人（同 15.4%）となった。
-

【対策】

- 実技試験の合格率が上昇（4.5%⇒8.3%）したとはいえ、依然として難関あることに変わりはない。第 7 回検定での合格を確実にするためには、しっかりとした受検対策ノウハウをもつ指導機関の指導によって合格方法論を掴む必要がある。
- 学科試験の「一部合格者」は、一部合格の後、2 年間は学科試験が免除される権利を取得できているので、その期間に実技試験合格のための対策を十分にとって、「総合合格」を勝ち取っていただきたい。
- 合格率について、実務経験年数の違いは 15 年まで、受検者の年齢別では 60 歳までは大きな相違は見られないので、受検資格のある方は、どんどんチャレンジしていただきたい。
- 検定試験は、リズム感、音程など各点数が評価されるカラオケマシンに例えられます。ディナーショーで情感豊かに歌って聴衆を引き付ける歌い方ではなく、決まった枠組み（評価区分）で譜面通りに歌う方法が評価されます。試験官が評価する視点を踏まえた検定対策計画を立ててください。

以上